

令和7年度 第5回三次市地域公共交通会議 議事要旨

1. 開催概要

日 時：令和7年11月12日（水）13時15分～14時30分

場 所：三次市役所 本庁舎6階 601・602会議室

出席者：

[会長] 三次市 副市長 山崎 輝雄

[委員]

三次市地域共創部 呑谷 巧	三次市建設部 濱口 勉
備北交通株式会社 實兼 利光	三次みどりタクシー株式会社 石田 光雄
私鉄中国地方労働組合備北交通支部 長谷川 和宏	八次地区 新田 泉
川西地区 兒玉 千洋	布野町 二本木 讓
三次広域商工会 中宗 久之	三次市社会福祉協議会 天野 かおり
中国運輸局広島運輸支局 藤本 陽（代理）	広島県地域政策局公共交通政策課 柴田 益良（代理）
西日本旅客鉄道株式会社広島支社 中組 龍生（代理）	広島経済大学経済学部 加藤 博和(web)

2. 会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
A I 活用型オンデマンドバス「のるーと三次」の運行概要について
- 4 協議事項
三次市地域公共交通計画（第2期）の骨子（案）について
- 5 その他
- 6 閉会

3. 議 事

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 報告事項

<事務局より、報告事項（1）「A I活用型オンデマンドバス「のるーと三次」の運行概要について」を説明>

(新田委員)

実際に利用したい方がスムーズに手続きを完了できるかが心配である。予約方法は、LINEや電話などであるが、高齢の方が多く利用されると思うため、チラシでは説明しきれないのではないかと心配している。いざとなれば電話をかけられるだろうが、取っ掛かりとしてよい印象を持ってもらえるように説明方法の工夫をしていただきたい。「あの動画を見ればわかる」といったものがあると困らないと思うので、ご検討いただきたい。

(事務局)

まだシステムが完成していないため操作手順を具体的にお示しできていないが、完成後に予約方法を図で示した資料を作成し、市ホームページでの掲載を予定している。

ご提案いただいた動画については、1月にケーブルテレビで紹介動画を放送するが、その際に予約方法も分かるようなものを製作したい。それをYouTubeにあげ、また市ホームページにリンクを貼る等で、ケーブルテレビの放送期間が終わっても予約方法のマニュアルとして使えるようにしたいと考えている。

(加藤委員)

運賃の支払いは、アプリではクレジットカードも使えるということであるが、現金払いが多くなると思う。確認だが、車内で両替はできるのか。また、本格運行後にキャッシュレスを促すような考えはあるのか。

本格運行に向けて、既存の「くるるん」の利用者をうまく「のるーと」に移行させ、さらに「のるーと」で新規の利用者を増やすこと目指されているが、現状の「くるるん」の利用者に対して移行を促すフォローを何か考えているのか。

また、調べたところ、三次市内には千人程の外国人が居住しており、自転車で移動する方が多いかもしれないが、そういった方々にも例えば外国人を雇用している企業や日本語教室等を通じて、利用方法等の情報が行き渡ればよい。

市外から観光やビジネス等で三次市を訪れる方にも便利に使ってもらいたい。「くるるん」に比べて

車両が小さくなるが、このメリットも活かせるのではないか。今の「くるるん」の停留所も活用しつつ、その沿線のホテル玄関先にも入る、また、サングリーンや元CCプラザの施設ももう少し店舗の中に入るなどが出来ればよいと思う。交通安全の問題があり簡単ではないかもしれないが、小型化するメリットを活かす面を追求してはどうか。

最後に、実証期間中に、乗降ポイント設置の希望がある場合、地域の方はどのような形で市に伝えればよいのか。例えば、地域内で協議を持って市に出すのか、または直接言うのか。地域と連携した形で「のるーと」が改善や発展していくようなプロセスが踏めればよいと思う。

(事務局)

1点目の支払い方法について、両替に関して利用ガイドに「両替機がないため釣銭が出ないようにご協力ください」と記載しており、できるだけ釣銭が無いようにしていただきたいが、万が一のために対応できるよう準備は必要と考えている。本格運行以降の支払い方法のキャッシュレス化については、すぐに新しく導入するという計画は無いが、利用者の意見等を聞きながら検討する。

2点目の「くるるん」利用者へのアプローチに関して、「くるるん」をよく利用されている方からも電話をいただいたりしているが、まずは乗り比べて欲しいと説明している。「くるるん」で事足りる方もいるが、例えば、一方通行の運行のため行きは近くても帰りが遠くなることや、1時間に1本しかないという状況も「のるーと」では解消される。運賃が若干上がるが、まずは利用して欲しいという話をしている。また、「くるるん」の車内で周知啓発を行う必要もあると考えている。

3点目の外国人への対応については、確かに市内で自転車移動されている方もいるが、意外とバス停で待たれている方もいるという実感もある。ただし、外国語対応のマニュアルを作るかは今後検討させていただきたい。

4点目の来訪者対応としてのホテルなどの敷地内への乗り入れについては、運用しながら要望があれば、ポイントを新設する等のアップデートを進めたい。

5点目の地域意見の反映について、具体的なスキームは作成していないが、意見をいただき、必要性があるような場合は、例えば住民自治組織に相談して、さらに常会の中での了解が必要ならば常会の方に話を持っていくなど調整しながら、乗降ポイントを設置するという流れになると思う。ただし、希望される全てを設置すると管理も出来なくなる為、新設箇所については十分に検討していきたいと考える。

(加藤委員)

来訪者向けの関連であるが、各地区で利用説明会を実施したり、ケーブルテレビで放映するなどには住民向けの取組と言える。他の事例では、お店や施設の方が予約システムの利用方法を知っておられ、案内等を対応されるという話も伺っている。全てを市役所が対応するのは大変なので、目的先のサングリーンや図書館など、公共、民間を含めて、施設向けの説明会があってもよい。例えば、商工会議所等を通じて説明されておくと、施設や民間事業者の方より利用案内でき、利用が進むのではないか。

(事務局)

今の周知啓発の取組は、利用者にダイレクトに訴求するという内容になっている。ただし、ご指摘

のように、内容を知った方に、さらに利用を促してもらって二次波及を狙った取組も必要と考えている。例えば、事業者ではないが、高齢者が集まるサロンやケアマネージャーが集まるような説明会で「のるーと」の利用方法について説明する等、まずは既存の集まりに参加して周知を図っていききたい。

4. 協議事項

<事務局より、協議事項「三次市地域公共交通計画（第2期）の骨子（案）について」を説明>

(藤本委員代理)

別紙協議事項関連①の9ページ施策10「乗務員不足への対応」に関して、バス乗務員は非常に不足している状況にあり、私は県内のバス、タクシー、トラックとライドシェアの関係を所管する担当であるが、あらゆるモードで運転手不足の話を目にしている。こうした中、市でバックアップしてもらえんという事は事業者にとり非常にありがたい話である。施策として、「情報発信等でこれを支援」とあり、目標1のKPIは現在検討中ということであるが、さすがに乗務員を何人増やすというKPIは難しいとしても、情報発信等での支援をどれくらいしたというのを盛り込むのもありではないか。ご検討いただければと思う。

(事務局)

ご意見をもとに、KPIにも盛り込めるよう検討していきたい。

(加藤委員)

市民アンケートの結果が示され概要の説明があったが、私の印象としては、特に布野地区で市民バスのデマンド化の要望が多いこと、そして財政負担についても、今より拡大することも良しとするという意見が相対的に多いという点が印象に残った。これを踏まえると、8ページ施策3に市民バスの運行改善があり、「不効率な路線やほとんど利用者のいない便などはデマンド化などの形態見直しを含め運行内容改善」、「利便性向上を図るために地域内生活交通検討会において定期的な検証」とあるが、不効率だからデマンドにするというよりも、より積極的に地域ニーズに応じて、地域が主となり交通を改善するといったことが書いてあってもよい。この度、市街地部分もデマンド化することもあり、そういった主旨が現れているとよいと思う。

9ページの目標3の評価指標に「鉄道利用促進イベントの参加者数」がある。前回の計画を作られた頃は、三次駅や沿線4つの自治体で駅前イベントを同時に行い盛り上がったため、参加者の人数を指標としていたと思うが、最近はこの鉄道利用促進イベント等を連携して行っているという印象があまりない。もちろん計画を立てまた実施するというのもよいと思うが、例えば、「どっちも割」の販売が好調に続いているので、この売上や利用数も指標になると考える。

目標2の評価指標が相乗りタクシーと運転免許自主返納の数になっているが、施策の赤い下線が引いてある箇所に公共ライドシェアがあるため、評価指標に何か反映されるとよい。

4ページの本計画の位置付けで、主な関連計画に三次市立小中学校の在り方に関する基本方針というのが入っている。教育委員会ベースで小中学校の再配置が具体的にスケジュールも立ててあるもの

だが、通学手段に関して計画骨子に文言としては見受けられない。どのような関連になっているのか。

(事務局)

1 点目の市民バスの運行改善について、確かに後向きな印象かもしれない。しかし実際には、市民バス作木町線が11月10日からデマンド化するが、これは地域の要望を受けて移行するものである。各地域にうかがうと、現状の定時定路線で困っていないという地域や、布野のように移行を考えているところもある。地域の声をお聞きしながら運行内容などについて改善していきたい。

2 点目の鉄道イベントの参加者について、毎年三次駅でJRが実施されている鉄道の日イベントにおいて、今年の10月に初めて芸備線対策協議会として参加した。ブースを設けて芸備線沿線の特産品を販売したり、芸備線110周年ということで記念ヘッドマークのデザインを募集したが、92点の応募があり、1点を最優秀賞、3点を優秀賞として選定し、最優秀賞の方の受賞式、ヘッドマークのお披露目式等を行った。このヘッドマークは、11月5日から2月下旬まで最優秀賞が2両分、優秀賞が1両分でそれぞれヘッドマークをつけた車両を運行している。芸備線対策協議会としても、JRとよい関係を築き、今後もやっていきたいということになっている。

3 点目の公共ライドシェアについても、ご指摘いただいたように盛り込んでいけるように考えていきたい。

4 点目の学校の再配置の件について、通学手段については、国の定める一定の基準の概ね1時間以内の通学時間を踏まえ、スクールバス、公共交通機関等での対応を基本とするということで、教育委員会の方の基本方針に示されている。これに関し、直接的な「学校再配置に伴う」という表現はしていないが、施策6で、地域公共交通のより安全・快適な運行のための道路整備等の推進を示している。学校方面に向かうバスの運行にあたり、まだ一部狭隘な所もあるため、こうした状況も踏まえて今回この取組を掲げている。

(實兼委員)

骨子6ページの基本方針、冒頭の「まちづくり」という言葉について、まちづくりという言葉はよく聞くが、今回の5年間の計画の中で、今と何が変わるという前提のまちづくりとお考えなのか。計画書の中で具体的に記載されるのであれば、参考にさせていただきたい。

また「持続可能な」という部分と、下の四角の中に「現行を基本とする」とあるが、これは現行を基本として持続可能なということになると、今のままずっと減少するというので、決してプラスにはならないと思う。現状維持という言葉に囚われては、決して持続ができるものにはならない。これに関して、計画の中でどのように触れられるのか。

(事務局)

維持に関して、三次市の特徴として広域な面積を有しているということで、幹線的な役割を果たす幹と、そこからつながる路線バスといった枝の部分、地域内での移動である葉の部分、この幹、枝、葉の組み合わせのネットワークを通じて人々の移動を支えていくという考え方を、基本的に維持するというものである。この中の「まちづくり」について、例えば葉のエリア内だけで生活できるかを考えると、地域によってはスーパーの無いところ、病院が無いところなどもある。そういった中で、葉

という考え方を地区単位だけではなく生活圏のような圏域で捉えるという考え方を「まちづくり」という言葉で表現している。

(山崎会長)

「まちづくり」についてはよく考えるということと、「現状維持」は縮小ではなく、人のいる交通空白地帯などでも、手段ややり方を工夫して公共交通機関を使うことで、維持を図るという意味合いともいえる。

(柴田委員代理)

今の質問にも関連するが、私も色々な市町の交通計画を見て、基本方針に「まちづくり」が入っていることはあまり無く、素晴らしいと思っている。一方で施策にあまりその要素が入っていないので、内容のブラッシュアップをお願いしたい。

(事務局)

施策の方にも反映させるようにブラッシュアップしていく。

(山崎会長)

地域づくりだけではなく、商業等色々と横串を刺していかなければならないので、庁内全体で意識できるようにしていく。

(柴田委員代理)

これに沿う県の施策もあるので連携していただきたい。

(二本木委員)

布野町の実態を報告する。今年2月に60歳以上の方を対象に生活アンケートを実施した。回答率は60%。対象者が700人に対し400人弱の方が回答した。この中で生活交通については比較的オンデマンドがよいという回答が多く、反対は少なかった。しかし、市民バスは週3日で路線も限られているが、黙っていても停留所に行けば乗れる。デマンドタクシーになると予約も必要で、料金も300円になる。アンケートを回答された方には、オンデマンドタクシーがタクシー代わりになるという誤解があり、家まで来てくれて、どこでも連れて行ってくれると思っている懸念がある。そういう整理できていない中でオンデマンドを進めるのはどうかという議論があり、民生委員を通して、主に市民バスを利用されている高齢の方たちを対象としてアンケートをとってもらおうと、少し結果のトーンが変わっていた。オンデマンドについてもっと理解されていないと進めることはできないと少し落ち着いてきた。前のめりでオンデマンドを進めたい訳ではないことはご承知いただきたい。

(事務局)

引き続き、情報共有しながらよりよい交通体系を作っていく。

(山崎会長)

他に無いようであれば、今いただいたご意見や、今後詳細な計画を作る上でのポイントも踏まえた上で、計画骨子案をご承認いただけるか。

(一同)

異議無し。

5. その他

無し

6. 閉 会

以 上